

こむれび

第 49 号

理事長からのメッセージ

新型コロナウイルスの感染拡大で、様々な社会活動が減少しています。外出自粛の動きが広がる中、感染を恐れデイサービスの利用控えも増えています。然しながら環境の変化や他者との交流不足は、気分の落ち込みや状態の悪化に繋がりがねず、現に一週間も経たずに歩行困難になった、認知機能が低下したとの話もお聞きます。

デイサービスは、個々の目標を立て、心身機能の維持・向上や機能訓練の提供を行うと同時に、他職種や地域と連携を図り、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続できるよう自立支援の体制作りも求められます。

今、本当に必要とされるデイサービスは何かが問われているのではないのでしょうか。

自分たちのサービスのどこにその独自性や特徴があるのか？

我々は、「選ばれる」デイサービスを目指すと共に、事業所を利用されない日でも利用者を支えられるような地域連携の拠点としての役割も果たしていきたいと思っています。

理事長 大屋敷 幸志

ICT化の取組み

超高齢社会の中で介護業界の人材不足は非常に深刻であり、この先危機的な状況を迎えると予測されています。そのため、我々は生き残りをかけての策を講じる必要があり、その一つとして、施設ICT化（情報通信技術を活用したコミュニケーションの向上）に複数年プロジェクトとして取り組んでおります。これは、今、話題となっております介護ロボットを含め、時代と共に革新的に向上している最先端技術や最先端システムを導入・活用することで視覚的事実や科学的根拠に基づく介護提供を実現し、入居者様の生活の質の向上と職員の働きやすさ向上を目指すものです。既に導入している介護記録システム（電子化）の活用やインカム（無線）の使用による情報の即時共有化だけではなく、セグウェイ（自動立乗二輪車）の導入にて広い施設内での夜勤帯の移動時間短縮と体力的負担の軽減を図りました。また、ベッドに横になるだけで自動的に睡眠、呼吸、心拍状況等が把握できるセンサーを一部導入し、睡眠状態の確認や排泄交換タイミングの把握も可能となりました。ナースコールやセンサー類はタブレット端末やスマートフォンとの連動・連携を進めているところであります。限られた人員の中で多くの入居者様に介護をする上では、業務円滑化は不可欠であり、機器活用による見える化が鍵となってきます。引続き、『最先端技術の活用』と『温もりのある介護の実践』にて、より良いサービスの提供に全力で努めて参ります。



麗寿 介護業務 ICT化 理想イメージ

～業務負担軽減・効率化～

- ・即時記録・確認
- ・危険予測・事故回避
- ・巡視・見守り軽減
- ・即時・同報(情報共有)
- ・移動距離軽減
- ・精神的負担軽減
- ・コミュニケーション向上



※要検討課題※

- ・PHS(20.7終了) ⇒ スマートフォン
- ・ネット環境整備(全室WiFi環境下)
- ・導入コストと費用対効果分析
- ・業務効率化と人員削減率分析
- ・各種補助金活用
- ・IT知識・技術者(実現可能なのか)
- ・法人内優先順位

アプリ化・統一、連動化

音声認識・翻訳ガイド

YouTube

動画視聴・マニュアル可視化

ナースコール

眠りスキャン

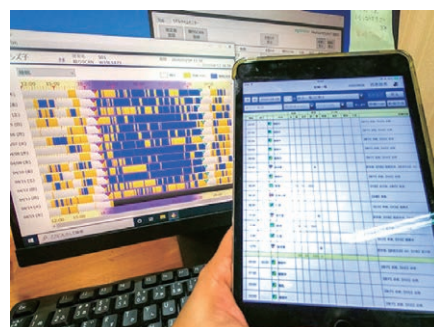
シルエットセンサー

インカム

ちょうじゅ

介護記録システム

ちょうじゅ



2020
10.1

No.
49

1	理事長からのメッセージ	1	ICT化の取組み
2	ふれあいの麗寿	2	ふれあいの泉
3	ふれあいの森	3	ふれあいの里
4	ケアセンター茅ヶ崎元町	4	ふれあいの家 みのり
5	ふれあいの家 こすもす	5	茅ヶ崎地区地域包括支援センターゆず
5	鶴嶺西地区地域包括支援センターみどり	6	麗寿会の地域での取り組みの紹介
5	小出地区地域包括支援センターわかば	8	麗寿会NEWS
7	平成31年度経営状況の報告	8	編集後記

● ふれあいの麗寿

入居者様にはできる限り『いつもと変わらぬ日々』と感じて頂けるよう、感染予防に努めながら職員達は日々の介護を実施しております。『ウイルスを外部から施設に持込まない!』を合言葉に、職員達は施設の安全を護るのが責務であると感染予防対策を徹底しています。その一方で、入居者様達のご家族と会えない寂しさを軽減できるよう、職員達は意見を出し合い、春はいちご狩りやお花見、夏はスイカ割りや花火など、四季を感じるイベント実施に注力しています。各階にて趣向を凝らしたイベントは好評で入居者様の笑顔と満足の声に職員達もホッと一安心しております。ご家族様にはオンライン面会を推奨し、画面越しの再開をサポートしております。



● ふれあいの泉

ふれあいの泉では、新型コロナウイルス感染予防の観点から、2月24日より長期に渡り面会を制限させて頂いていますが、ご入居者様のお顔が見られずご家族様におかれては、大変気掛かりな毎日をお過ごしと想い、オンラインでの面会を開始し、多くの皆さまがご利用されています。いつ収束するかわからないコロナウイルスに対し、施設としても出来る限りの感染予防対策を取っていきます。

又、地域貢献送迎バス事業も、数か月間休止をしていましたが、地域住民の方々より、自粛期間買い物に困った、買い物バスを再開してほしい等の要望もあり7月より再開しました。人員を制限させて頂いたり、乗車位置を離したり、換気や消毒等行ない、地域との共生社会を深めるために取り組んでいます。



ふれあいの森

当施設においては、新型コロナウイルスの感染防止策、「ウイルスを持ち込まない」を徹底し、手洗い・うがい・マスクの着用と職員の出勤前・入館前の健康チェック及び入居者・利用者様の毎朝の検温を実施し、施設内も換気と共有部分の消毒等に力を入れています。

特養ホームでは、6月よりタブレット端末を使ったオンライン面会を実施しています。新型コロナウイルスの影響でご家族には面会の制限をお願いしている中、顔が見えるととても喜ばれています。初めのうちは職員もご家族も手探りの中で始めましたが、今では繰り返しご利用されているご家族もいらっしゃいます。

オンライン面会用アプリの機能を使い、3ヵ所同時に接続して普段離れて暮らしているご家族同士がオンライン面会を通じてお互いに顔を見て話せる機会にもなっています。

また、毎月、利用者様の様子を写真に撮って郵送させていただき取り組みも行っており、ご家族からも顔が見られて良かったとの声をいただいています。



ふれあいの里

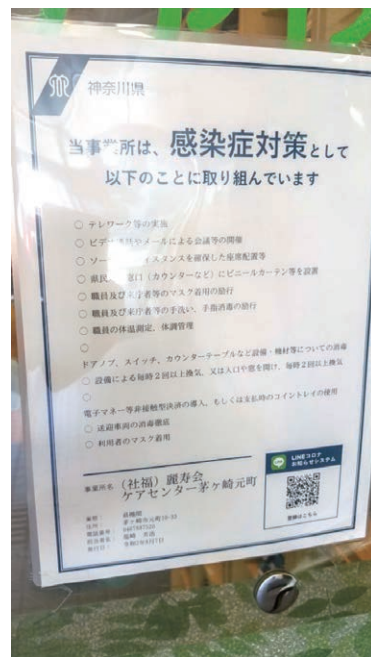
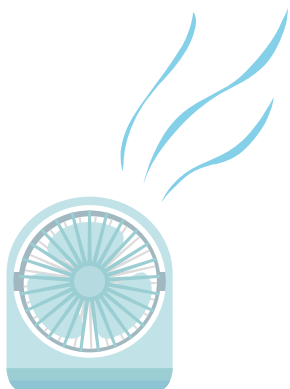
ふれあいの里では、体操の専門家による「行谷地区シニア体操教室」、介護で疲れた時気軽に來て頂ける場所として「ふれあいカフェ」、地域のご希望を伺い「映画上映会」を行っています。また、施設の取り組みでは年間行事の他に、里まつり、ドライブ・買物ツアー、書道・華道・茶道・俳句・音楽・散歩等クラブ活動や、おやつ作り・アロマテラピー等を行っています。専門職からのいきいき健康講座」もあります。入居者様の一番人気は里喫茶。週1回入れたてのドトールコーヒーや紅茶・ココアを1杯100円で楽しめます。今後は、新型コロナウイルス感染予防対策を継続して徹底し、今後もウイルスとの共存を踏まえ、新しい生活様式を取り入れて創意工夫をしています。



● ケアセンター茅ヶ崎元町

ケアセンター茅ヶ崎元町では、昨今の新型コロナ（COVID-19）感染防止対策として様々な取り組みを行ってきましたので、今回いくつかご紹介させていただきます。

お風呂場脱衣場に防災カーテンを設置し、サーキュレータを置いて風通しを良くしました。また会議室に職員手作りでパーティションを設置、その他デイルームには必要に応じて可動式パーティションを設置しました。今後も常に感染防止を喚起して、利用者皆さまへ安心していただけるよう、サービス向上に務めてまいります。



● ふれあいの家 みのり

ふれあいの家みのりは、平成25年に漁師町として古き良き歴史のある南湖へ開所し7年目となりました。茅ヶ崎海岸近隣に立地し、潮の香りが漂う閑静な地域にあるグループホームです。

年始は近くにある由緒ある住吉神社へ初詣に行き、今年的一年皆様の無病息災を祈願しました。そして、1月3日にはみのり恒例行事である箱根駅伝大会に麗寿会本部・みのり職員増員し安全に努めながら、観戦しに行ってきました。お天気にも恵まれ日当たりも良く選手の姿を見つけるとご入居者様も一生懸命に旗を振って応援されていました。

沿道で配布される駅伝の旗をコレクションされるご入居者様もいらっしゃったりとお一人おひとり楽しみにされているイベントの一つとなっている年初め行事となっています。箱根駅伝のおかげでたくさん人に施設の存在を知ってもらえる機会ともなっているように感じました。今後も地域に根ざした運営・地域性を活かした行事をご提供させていただきます。



● ふれあいの家 こすもす

元旦の新年祝賀会に続いて、どんどん焼きに利用者様と行って来ました。その後の新型コロナウイルスの影響で、いろいろなイベントが中止になっています。そんな中でも、利用者様に楽しんでいただける様、感染予防をしながら色々なレクリエーションを催しています。外出はなかなか難しいですが、近所を花見ドライブしたり、誕生会ではカラオケを楽しみ、8月にはご先祖様をお迎え送り、そして室内での納涼祭は太鼓を叩いたり、踊ったり、ヨーヨーすくいにカキ氷と盛りだくさんでしたが、皆さんとても楽しまれました。



● 鶴嶺西地区地域包括支援センターみどり

コロナに負けるな!!

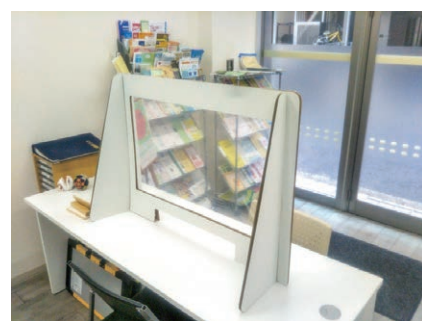
包括支援センターみどりでは、感染症拡大防止に向け「今包括にできること」を模索し、ステイホームにより引き起こされる様々な課題に対し注意喚起を個別配布。

4月に「創刊号」・フレイル予防・運動・栄養・詐欺被害防止、6月の「包括通信第1号」は新しい生活様式を踏まえ、熱中症予防と対策に関する啓発案内です。回覧板・スーパー・コンビニ・医療機関へ依頼、今後も不定期ながら、地域へ発信していく予定です。



● 茅ヶ崎地区地域包括支援センターゆず

茅ヶ崎地区地域包括支援センターゆずでは新型コロナウイルス対策としてクリアボードを設置いたしました。その他マスクの着用や消毒液の常備等、地域住民の皆さまに安心してご相談いただけるように万全の体制を整えております。また、お電話やメールでのご相談も積極的にお受けしております。今後とも、どんな状況であってもお困りごとが会った際には安心して相談できるセンター運営を目指してまいります。



● 小出地区地域包括支援センターわかば

わかばの取組み。①地域の皆様にここが「わかば」と分かるよう、入口に大きくシールを貼り、長イスや手すりを設置しました。②近隣の店舗向けに認知症の方への関わり方や、連絡先を記した「認知症ガイド」を作成しました。困った時に活用して頂きたいです。③外出自粛の中、人との関わりの減少による気力・体力低下防止の為に「そうだわかばに電話しよう」のチラシを作成しました。今後も気軽な相談場所、「わかば」を目指します。



麗寿会の地域での取り組みの紹介

認知症ケア推進委員会

麗寿会の強みとしての認知症ケアを、再度法人全体の取り組みとして、施設内外に発信していく目的で「認知症ケア推進委員会」を昨年10月発足させました。

始めの一歩として、全職員を対象に認知症サポーター養成講座を行いました。職員全員が認知症の理解を深め、サポーターとしてご利用者・ご家族・地域の方々に寄り添っていかうと考えたからです。

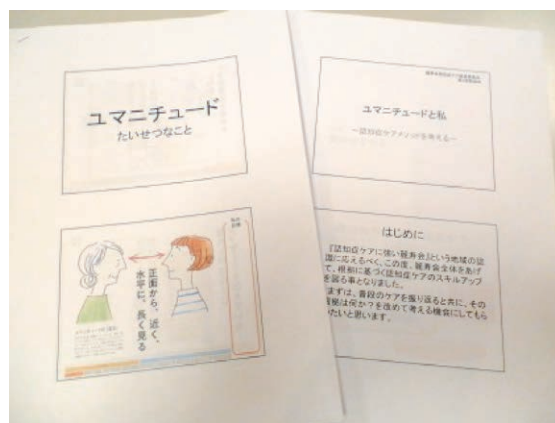
次に、認知症の基本を理解した上で、「ユマニチュード」「パーソンセンタードケア」「バリデーション」等認知症ケアメソッドの中で、最も取り組みやすい「ユマニチュード」を実践しようと考えました。

ケアをする側、される側が「よかった」と感じられる関係性が成り立つ事が重要と考え、その関係性を作り上げる為に、何が必要か話し合いました。

「ユマニチュード」とは、私達が普段行っているケアを、ただの業務と捉えずに、見る技術、話す技術、触れる技術、立たせる技術を4つの柱としています。行動の抑制も強制も行なわない環境作りを行えば、その能力を維持したり改善したりすることも学びました。

そして、今年2～4月にかけて、「ユマニチュード」研修を行いました（総勢241名の介護職・看護職が参加）。又、委員は日本ユマニチュード学会が主催する研修に参加し、認知症ケアや高齢者介護の底上げに繋がっています。

将来的には、認知症の方の人権擁護や、身体状況、心理的側面、社会資源、さらには高齢者福祉などの学際的な知識を役立てられるよう取り組んでまいります。



平成31年度経営状況の報告

法人単位 資金収支計算書

第1号第1様式

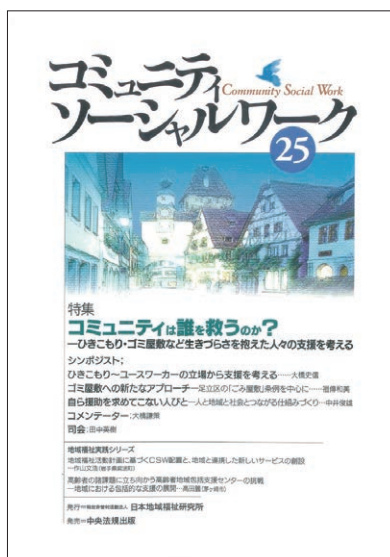
法人名：社会福祉法人 麗寿会

(自)平成31年4月1日 (至)令和2年3月31日

(単位：円)

勘定科目	予算 (A)	決算 (B)	差異 (A)－(B)	備考
事業活動による収支				
収 入				
介護保険事業収入	1,843,935,000	1,843,729,789	205,211	
老人福祉事業収入	73,748,000	71,773,744	1,974,256	
借入金利息補助金収入	30,000	0	30,000	
経常経費寄附金収入	29,000	58,000	△ 29,000	
受取利息配当金収入	2,000	3,718	△ 1,718	
その他の収入	6,256,000	13,813,235	△ 7,557,235	
流動資産評価益等による資金増加額	0	0	0	
事業活動収入計 (1)	1,924,000,000	1,929,378,486	△ 5,378,486	
支 出				
人件費支出	1,290,600,000	1,287,368,407	3,231,593	
事業費支出	243,913,000	251,700,715	△ 7,787,715	
事務費支出	262,652,000	262,903,125	△ 251,125	
利用者負担軽減額	581,000	937,808	△ 356,808	
支払利息支出	9,039,000	9,721,863	△ 682,863	
その他の支出	12,215,000	14,755,365	△ 2,540,365	
流動資産評価損等による資金減少額	0	0	0	
事業活動支出計 (2)	1,819,000,000	1,827,387,283	△ 8,387,283	
事業活動資金収支差額 (3=1-2)	105,000,000	101,991,203	3,008,797	
施設整備等による収支				
収 入				
施設整備等補助金収入	3,300,000	5,242,000	△ 1,942,000	
施設整備等寄附金収入	0	0	0	
設備資金借入金収入	0	0	0	
固定資産売却収入	0	0	0	
その他の施設整備等による収入	0	0	0	
施設整備等収入計 (4)	3,300,000	5,242,000	△ 1,942,000	
支 出				
設備資金借入金元金償還支出	67,906,000	68,358,000	△ 452,000	
固定資産取得支出	10,404,000	17,005,393	△ 6,601,393	
固定資産除却・廃棄支出	0	0	0	
ファイナンス・リース債務の返済支出	2,888,665	3,259,548	△ 370,883	
その他の施設整備等による支出	292,000	292,000	0	
施設整備等支出計 (5)	81,490,665	88,914,941	△ 7,424,276	
施設整備等資金収支差額 (6=4-5)	△ 78,190,665	△ 83,672,941	5,482,276	
その他の活動による収支				
収 入				
長期運営資金借入金元金償還寄附金収入	0	0	0	
長期運営資金借入金収入	0	0	0	
長期貸付金回収収入	0	0	0	
投資有価証券売却収入	0	0	0	
積立資産取崩収入	12,230,980	18,885,720	△ 6,654,740	
その他の活動による収入	16,320,000	16,320,000	0	
その他の活動収入計 (7)	28,550,980	35,205,720	△ 6,654,740	
支 出				
長期運営資金借入金元金償還支出	0	0	0	
長期貸付金支出	0	0	0	
投資有価証券取得支出	0	0	0	
積立資産支出	26,715,250	27,587,000	△ 871,750	
その他の活動による支出	4,762,000	10,826,490	△ 6,064,490	
その他の活動支出計 (8)	31,477,250	38,413,490	△ 6,936,240	
その他の活動資金収支差額 (9=7-8)	△ 2,926,270	△ 3,207,770	281,500	
予備費支出 (10)	0	0	0	
当期資金収支差額合計 (11=3+6+9-10)	23,883,065	15,110,492	8,772,573	
前期末支払資金残高 (12)	0	462,495,147	△ 462,495,147	
当期末支払資金残高 (11+12)	23,883,065	477,605,639	△ 453,722,574	

雑誌『コミュニティソーシャルワーク』
25号で茅ヶ崎地区地域包括支援セン
ターゆずの実践を取り上げていただきま
した。



社会福祉法人麗寿会では、専用のWEB
ページにて各事業所の案内や最新の情報
について掲載しております。本誌QRコ
ードからアクセスできますので、ぜひご覧
頂ければと存じます。



編集後記

新型コロナ禍において、「感染防止」に関わる情報発信は日を追うごとに増えてきました。
事業所としては感染者を出さない事業運営と、一方陽性者が発生した場合の対応策の双方が
必要です。
クラスターが発生した福祉施設の多くが、施設内に継続して陽性入所者のケアにあたって
いたという記事が専門誌に掲載され始めました。その取り組みを基に当法人でも、改めて職員
体制、行政や医療機関との連携、ゾーニング（感染拡大防止のための施設内区域分け）を整理し
対策強化に当たりました。これまでの感染症対策マニュアルに沿った対応の浸透が、未知のコロ
ナウイルス対応の大きな原動力になったことも確かです。
日ごろから感染症予防対策を徹底し、職員が安心して働ける職場づくりとリーダーの強い決
断力をもって、これからも利用者の安全確保に努めてまいります。

法人事務長 鳥羽 芳弘



社会福祉法人麗寿会
では、行事やイベント、
各施設の取り組み等を
「facebook」にて随時公
開しております。麗寿
会WEBページからのリン
ク、もしくは本誌QR
コードからアクセスでき
ますので、ぜひご覧頂
ければと存じます。